

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 93を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(7)

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 93を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

6月11日に塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)は[PVC News No.93](#)を発行しました。今号の「トップニュース」は、今年で5回目となる「PVC Design Award 2015」のスタートを前に開催されたデザイナー・クリエイターを対象としたセミナーの様子をご紹介します。

No. 93号の構成は以下の通りです。

○トップニュース

「PVC Design Award 2015」デザイナー向けセミナー

—名古屋、東京、大阪で連続開催—

○シリーズインタビュー/さきがけびとにきく

高級ビニール傘に見る「人とつながるモノづくり」

ホワイトローズ(株) 代表取締役 社長 須藤 宰 氏

○リサイクルの現場から

創業60年、光洋ビニールの塩ビリサイクル事業

—塩ビの工場スクラップを回収、多彩な技術でシート・マット等にリサイクル—

○インフォメーション1

お花見の風景を変えた「花びらピクニックシート」

—塩ビデザイン・アワード入賞作品を商品化。被災地支援にもひと役—

○インフォメーション2

ユニーク展示会！

—「土のうプロジェクト」の面白さと先進性—

○講演会レポート

JPEC 研修会、今年も東京・大阪で好評開催

—塩ビの最新情報、高周波技術の応用、欧州の化学物質規制状況などを紹介—

○塩ビ最前線

雨水を大地に！プラスチック製「雨水浸透ます」の効用

○広報だより

『みんなで創るオリンピック・パラリンピック』「出版記念交流会」開く

元気ネット

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「トップニュース」では『PVC Design Award 2015』デザイナー向けセミナーの様子を伝えています。今回は名古屋、東京、大阪で1ヵ月早く開催、またレザーなどの新たな素材やサンプル帳を加えた100種類を超える塩ビ素材の紹介も行いました。実際に手に取って見られたデザイナーの方々からは、加工の際のコンタクト先や加工方法についての質問、相談が多く寄せられました。塩ビ素材について理解を得てアワードへ新しく参加いただける方が増えることを願っております。また、今回のセミナーの目的であるデザイナーと加工メーカーとのコラボも早期に動き出しています。

「さきがけびとにきく」はホワイトローズ(株)の須藤社長をインタビューしました。ホワイトローズ社は高級ビニール傘の製造・販売で様々なメディアでも取り上げられています。須藤社長の販売方法はネットでの拡大路線ではなく、お客様が自分でネットなどで探してお店に買いに来てもらうこと。取材中にもビニール傘を購入に来られる方や修理をしてほしいお客様が来店され、直接お客様とのコミュニケーションを大事にする須藤社長の心意気を感じました。

「インフォメーション」ではお花見の風景を変える『花びらピクニックシート』を紹介しました。花びらピクニックシートは[デザインアワード2013の入賞作品](#)です。

鈴木さんは受賞後、『花びらシートで被災地に笑顔を』プロジェクトを立ち上げ、クラウドファンด์による協力金を募集したところ短期間で目標額を達成しました。長野北部地震で被災した白馬村と小谷村に100枚贈り、その後、宮城県石巻市の商業施設でのお花見イベントなど15の自治体・団体に寄贈しています。綺麗な花びらのシートで花見がひらかれ、楽しそうに笑う子どもたちの笑顔の写真が印象的でした。

「塩ビ最前線」は雨水浸透ますの紹介。雨水浸透ますは近年ニュースでもよく耳にするようになったゲリラ豪雨への対策として注目を集めています。この浸透ますは、自然に近い形で雨水を地下に浸透させることで、アスファルトなどで覆われた都会の雨水がいきなり排水路に集中し起こる洪水被害を軽減するだけでなく、地下水の涵養、保全という観点でも近年重要視されており、マス・マンホール協会は、なるべく多くの家屋に設置されるよう普及を図っています。

広報だよりで紹介しているNPO法人・元気ネットは、東京オリンピック・パラリンピックをごみゼロ大会実現に向け活動されています。塩ビ製品が多く使用された前回のロンドン大会では、ロンドンの組織委員会と様々な環境団体が協力してゴミ排出ゼロを達成しました。元気ネットはロンドン大会を調査し東京でもごみゼロ活動を推進しようと活動されています。

『PVCニュース』は[JPCCのホームページ](#)から、最新号、バックナンバー共にご覧いただけます。

ご講読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（7）

木下 清隆

<前回とのつながり>

今回は天照大神に関する津田左右吉と直木孝次郎の論説を紹介したが、直木氏については、途中で終わってしまったので、今回は、その続きから始まる。

- ⑤ 伊勢神宮が最初から皇室の氏の神である天照大神を祭祀していたとは考えられない。理由は、皇室の氏の神を大和の遠隔の地、伊勢に祀ることの不自然なこと、伊勢と皇室との間には特別な深い関係がないこと、古代から天武天皇まで天皇の伊勢参詣・奉幣が一度もないこと、伊勢神宮を他の神社と区別する意識が生まれたのは持統後の文武天皇時代であり、伊勢神宮が大化前代から天皇家の氏の社であったとは考えにくいこと、等である。「このように考えてくると、伊勢神宮は皇室の氏の神の社ではなく、伊勢大神は皇室の氏の神ではないということになる。それでは、伊勢神宮の祭神はもと何であったか。私の結論をいおう。それは伊勢地方に神威を有する地方的な神であるよりほかはない。」（二五七p）
- ⑥ しかし、伊勢神宮は大化以前から皇室の特別の崇敬を受けており、なぜ、この地方神が皇室の氏の神となったかの疑問は出てくる。皇室の氏の神となったプロセスとしては、皇室の東方発展に伊勢が要衝の地であった。六世紀初頭以降、古く見ても五世紀後期の雄略朝以降、皇室は伊勢神宮に特別な崇敬を寄せるようになった。伊勢は日の神の霊地と考えられ、伊勢神宮には日の神が祀られていたと想定されるが、これと皇室の氏の神たる天照大神とが混同され、伊勢神宮に天照大神が祀られるようになった。伊勢神宮が唯一最高の地位を占めるようになった決定的要因は壬申の乱である、といったことが考えられる。



大神神社 参道

この直木氏の所説は、戦前の津田氏等の考え方を踏まえ、祖先神と氏神の重要な違いを切り口として、天照大神問題に挑んだ論文である。氏の結論は一言でいえば先に「地方神昇格説」と名付けたものになるが、この時代の天照大神・伊勢神宮論としては、画期的なものではなかろうか。この論文から約十年後の昭和三十五年に岡田氏の論文が出るが、これは先に紹介したように内宮と外宮との違いを切り口とし、外宮の神主である度会氏に焦点をあてることで本問題に挑んでいる。

更に考古学的な知見も援用されており、当然直木氏とは異なる結論が導かれている。その一つは、皇室守護神の伊勢遷座問題である。直木氏はこれを認めていないが、岡田氏は認めると同時に、その祭祀場所を荒祭宮とまで推定している。次は天照大神の誕生についてであるが、岡田氏がこれを天武朝としているのに対し、直木氏はこれを明確には述べていない。更にこの神の性の問題についても岡田氏の女神説に対し、直木氏はこれにも全く触れていない、等である。しかし、皇室と伊勢との関わりについては両者とも雄略朝頃を想定しており、この点では同一となっている。

次に、山尾幸久氏であるが、氏は『日本古代王権形成史論』（岩波書店、一九八三）の中で、「ある時期に伊勢に移された倭王権の最高守護神日の神の祭場は、かつて三輪山麓にあったことになるが、近時の有力な学説では、伊勢神宮のいわゆる内宮の起源に関するこの伝承は、造作されたものとして否定的に扱われている。通説的な見解は次のごとくいう。伊勢神宮には元来日の神を祭る伊勢地方神の神社であったが、五世紀後半～六世紀前半から大王家の特別の崇敬を受け始め、壬申の乱を重大な契機として皇祖神を祭る神社への方向が始まる、と。“伊勢地方神の君主守護神への転化”を基調とするこの論説が、右の伝承の忠実性に懐疑的であるのは当然である。しかし、地方的土豪の守護神が君主守護神に昇華するなどということが、果たして生じうることなのであろうか。私は、倭王権の最高守護神たる太陽神の祭場が、伊勢地方の太陽信仰の聖地に、ある時期に移されたと見る説のほうが合理的であると思う。」（九八、九九p）



大神神社 拝殿

と述べ、直木氏の地方神昇格説を否定し、岡田氏の皇祖神遷座説に賛意を表している。また、最高守護神については、

「伊勢齋王の事在性は雄略紀からと考えてよいであろうから、五世紀後半に、倭王権の最高守護神が三輪山から伊勢に遷祀されたことは、後述する倭王権の政治形態の変質を参考にして、肯定的に理解してよいと思われる。右の最高守護神は、今日の研究水準を踏まえていえば、もちろん天照大神でなく、齋王の異性神であり、のちに皇祖神となるような太陽の霊力が象徴化された至高神でなければならず、多言を費やすまでもなく、のちには高皇産霊尊（高御産巢日神・天照高弥牟須比命）とされるような日の神であって、天照大神はこの神に仕える妻（オオヒルメ）または歴代女性最高司祭者の神格化であろう。」（九九p）

と述べ、倭王権の最高守護神は男神であり高皇産霊尊とされるような神であること、この神が三輪山から伊勢に遷されたこと、天照大神はこの神に仕える妻の神格化であること等の考え方が明確にされている。一見、岡田氏の見解に極めて類似しているように見えるが重要な点で異なっている。それは山尾氏の場合、伊勢に遷座したのは三輪山の神であるのに対し、岡田氏の場合は、大王家の守護神である日の神であり、その場所も難波から伊勢に移ったとしている点である。

ところがその後、山尾氏は『古代王権の原像』（学生社、二〇〇三）の中で、自らのこの説を覆し、「そのころ私は三輪山の麓で元来祀られた神を〔タカミムスヒ〕と考えていた。しかし、近年の研究に触れて、〔タカミムスヒ〕とは、五世紀後半に、夫余王・高句麗王・百濟王系統の族祖〔天帝〕の觀念が採用されて倭王の始祖神と定まり、王が宮廷で親祭しはじめた、そんな神格と考えるようになった。〔タカミムスヒ〕の成立によって、五世紀後半に三輪山の麓から伊勢に遷祀されたのは、女性太陽神〔オオヒルメムチ〕と考えるのが合理的であろう。」（一三八p）

と述べている。これによってタカミムスヒが否定され、オオヒルメムチに入れ替わったことになるが、この変更から派生する諸問題については、何もコメントされていない。

（つづく）

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)

「古代ヤマトの遠景」：[バックナンバー](#)

■ 編集後記

リコピンとやらが身体に良いとのことでトマトを食べるようにしていますが、先日、「トマトおかき」なるものをいただきました。“トマト”と“おかき”の組合せにあまりなじみがありませんでしたが、トマトをまるごと使って、果肉と果汁を生地に練り込んであるそうです。また、そのトマトがただものではなく、「酸味の強いアンデス高原のトマトと、しっかり甘いポルトガルのトマト」とのことです。

南米、西欧のトマトと日本のお米のコンビネーションで、ほんのり赤く、酸味と塩味の爽やかな“おかき”を美味しくいただきました。(漠)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp